

津島市市政報告会（蛭間小学校区開催）会議録

日程 令和6年7月6日（土）

午前10時～11時14分

会場 蛭間地区コミュニティセンター

1 開催対象

蛭間小学校区にお住まいの方（参加者：67人）

2 内容

市長説明（10：00～10：47）

質疑応答（10：47～11：14）

3 市長説明

テーマ「津島市の取り組みについて『まちづくり、子育て支援、そして定住へ』
つしま未来創造予算を中心に」

4 質疑応答（要旨）及び回答

（1）消防の広域化について

意見

愛西市とのはしご車の共同整備を行うとのことであった。これに関して海部地域で五つの消防本部があり、消防長は五人いることになる。これが統合されれば一人で済み、他の四人は別の仕事のための人材に出来る。事務方もスムーズに人員配置できるのではないか。令和7年度に名古屋市との消防指令センターの共同運用の話もあるが各消防署によって出動体制が違うのでどうなっているのかわからないが、海部津島地域5消防本部で合同の消防組織があれば効率化できるのではないか。

市長

はしご車は年に何度も使わないが、各市で数億円かかるものを購入・運用していたものを今回連携して整備した。なんでこんなことが今までできなかったのかと思われるだろうが難しいことであった。これは県下初の取り組みである。令和7年度から海部津島地域の消防の情報拠点が名古屋市に移ることが決まっている。消防の広域化については、各消防本部で色々な体制が異なる。名古屋市から勉強を、というような話もあるが、実現には様々な課題がある。名古屋市と一体となった時、海部津島地域の位置づけがどうなるか。地域の西の端にあたる津島市にどの程度のサービスが行われるのか。広域化は効率化の中で有効な手段として一つの選択肢ではあるが実際の救急や消防の関係が、名古屋市約230万人と海部津島地域約30万人の位置づけでどうなるのかを実際に落とし込んで検討しなければ、名古屋市からのオファーがあったとしても単純に乗るのが良いのか考えなければならない。しかしながら、できるだけ連携と広域化は必要であり手始め

にはしご車の共同整備を行った。これから市民の皆さまの安全安心を守るために、どのように広域化・連携を深めていくかは、人口減少社会の中でサービスの質を落とさないためにも重要な課題である。

(2) 津島市産業廃棄物処理施設の設置等に係る紛争の予防に関する条例について

意見

今年3月に制定された津島市産業廃棄物処理施設の設置等に係る紛争の予防に関する条例について、この7月から施行され、津島市で新しい産業廃棄物処理施設を設置する際には一定の規模以上のものは事前協議が必要となり、これがなければ新設できないものになったため、今後産業廃棄物処理施設は津島市に出来にくいものになったという認識で良いか。

市長

土地を所有されているみなさんは感じていることだが、市内で産業廃棄物処理施設が突然できてしまったということがあった。これは大きな問題であるので、津島市としてできる範囲の抑止力が必要であるとして条例を作った。簡単に言えば産業廃棄物処理施設を設置する際には事前に近隣住民に相談し、市へ報告書を提出しなさいというもの。これによる100%の抑止はできない。産業廃棄物処理施設の許認可は市ではなく県が行うからだ。しかしさらに市として何ができるかを考え、県の規制に上乘せして、簡単には施設を作らせないという目的でこの条例を作った。条例で定められた説明会が開かれれば、こぞって地域で意見を述べていただきたい。そういう場を設けられるようにした。そこで意見があれば粘り強く伝えていただく。市としても報告書を受けて適宜指導を行う。7月1日から施行される本条例について、地域の声を事業者伝えていただきたい。

(3) 東公園及び財政について

意見

説明のあった都市計画マスタープランの中で取り組む東公園について、実際は市の中心にあるから今回を期に東公園ではなくセントラルパークなどと名前を変えてはどうか。

また、財政について配布資料を見て気になったのが、地方債残高が全国の市町村の中で順位がさほど高くないように思える。今後も企業誘致を通じ自主財源比率を上げていただきたい。借金は経常化のためにも必要だが市民一人当たりの借金が減るのが望ましく、ラスパイレス指数の低さも上がると良いと感じた。

市長

東公園の名称について、そのような意見もいただいているが、津島市玄関構想による東の玄関として東公園を位置付けており、まちづくりに繋がる。名称については玄関構想が実現したら変更しても良いかもしれないが現状はご理解いただきたい。

財政について、自主財源比率やラスパイレス指数等の低位の指標はあるが全体的には

財政健全度は全国市区町村の上位5分の1に位置しており昔のように悪いものではないということを知っていただきたい。もちろん何かあったときに対応できる財源の余力は必要である。引き続き無駄を省き、集中的に市民の皆さまの将来のまちづくり、ひとづくり、子育て等創造するための施策を今こそ打っていくことが津島市の将来になる。そうしてみなさまに必ず還元できると確信している。

(4) ふれあいバスについて

意見

ふれあいバスを利用している。蛭間地区を通るふれあいバスCコースについて本数を増やしていただけるとありがたい。

市長

ふれあいバスは、9、10年前にバスを2台購入して運用している。本数については現状の2台だけでは限界がある。このことについて、巡回バス検討委員会でも今お聞きしているようなことを踏まえ練っているところ。いろいろな案があるので使い勝手の良いものとしたい。

市職員

今いただいたようなご意見を市内全域から拾い、昨年度ふれあいバスの見直しのための調査を行い今後の形について色々なパターンや財源的なシミュレーションが出た。今年度具体的に地域、特に各コミュニティの意見を聞きながら利便性の図れるバスの運行を目指していくので、地域公共交通会議という場を通じ、最終的な決定へ向けて、少々時間はかかるが進めていく。

(5) 市民に望むことについて

意見

消滅可能性自治体に津島市がなったと聞いて大変だなと思ったが、本日話を聞いてそうではないなと分かり来てよかった。人口減少や経済低迷などの状況下でいろんな声のある中で行財政改革や投資的事業の様子も聞けて今日は来て良かった。市長が自分のリーダーシップを発揮されているのだなと思った。

最後に、市がいろんな取り組みを行う上で、どうしても市民が我慢しなければならないこともあると思うが、そういうものがあればお聞かせいただきたい。

市長

私が市民の皆さんにお願いするならばやはりキーワードは健康である。マザーテレサの言葉に世の中で一番深い病は何か、それは孤独・孤立であるというものがある。おでかけタクシー事業もその対策の一つである。仲間を作っていただき、例えば今日のこの場のようなところへ出かけみようと思える心が大切である。皆さんが元気であることが市にとっても皆様にとっても大事なことである。